曹洞春秋

SOH　TOH　SHUN　JYŪ

總和会三綱領

1、宗門の興隆を図り、宗政の運営に関し、公正妥当なる施策の実現を期すること。
2、本宗の伝統性格を尊重し、大本山の尊厳維持に努めること。
3、会員相互の協調連絡を図り、その親和結束を固くすること。

発行所　總和会本部　〒105-0002 東京都港区愛宕 2-3-4 大本山總持寺出張所内 TEL 03(3431)5017

第135回　通常宗議会

「新型コロナウイルス感染症の影響による福祉資金貸付規程」制定
須田孝英議長辞任。新議長は三吉由之師（10月14日付）

第２次鬼生田俊英内局発足

総務部長 橋本壽幸師／人事部長 成田隆真師／伝道部長 岩井秀弘師（10月21日付）

令和２年10月12日から15日までの４日間の日程で、６月から延期となっていた第135回通常宗議会が招集された。コロナ禍において議会の設営や運営にあたり最大限の配慮がなされる中、鬼生田総長が新管長南澤道人不老閣猊下のご代理として勤められた開会式にはじまり、上程された議案は令和２年度一般会計歳入歳出補正予算案をはじめ７件、承認を求める件は令和元年度一般会計歳入歳出決算をはじめ17件、報告は令和２年度一般会計歳入歳出補正予算他1件の２件であった。

全ての案件が承認可決され、スムーズな運営により３日間の日程で議了した。特に、コロナ禍において実施されたアンケート結果を踏まえ、「新型コロナウイルス感染症の影響による福祉資金貸付規程」が制定され、緊急かつ一時的な資金が必要な寺院に対して、その運営資金の一助に資するために最大200万円（据置１年・返済５年以内・無利息）の貸付が可能となった。また、令和２年度一般会計歳入歳出補正予算が可決され、新型コロナウイルス感染症対策積立金（全国的な感染拡大の影響により執行することができず余剰が見込まれるものについて、令和３年度一般会計歳入に繰り入れ、宗費負担を軽減する目的として凡そ２億７千万円）が計上された。

さらに、現内局の重点である宗制全般にわたる見直しの具現化に向けて議会規程の一部変更が可決され、特別委員会の継続審査が可能となった。これを受け、第一特別委員会に付託された「審事院規程一部変更案」は継続審査となる。

本議会中通告質問は５本（内３本總和会）、文書質問６本（内總和会１本）であった。コロナ禍の影響により心配される檀信徒会館、特派布教、梅花、宗務行政等について質問が行われた。

また、須田議長辞任による議長選挙が行われ、満票にて三吉由之議員を新議長として選出、管長より任命された。なお、来年度長野県で予定されていた梅花流全国奉詠大会は議会中に梅花審議会にて審議検討され、庁議にて中止が決定、議場にて報告された。

第百三十五回　通常宗議会　開会式

閤宗知識集斯場
両祖真前心意剛
虔備香華開議會
恢弘正法打商量

令和元年度　一般会計歳入歳出決算

歳　　入　50億269万5,651円
歳　　出　44億4,555万237円（経常部　42億3,407万9,781円／臨時部　２億1,147万456円）
差引残額　５億5,714万5,414円（令和２年度準備資金に編入）

●議決された議案／令和２年度曹洞宗一般会計歳入歳出補正予算（第２回）・令和２年度曹洞宗護持会特別会計歳入歳出補正予算（第１回）・令和２年度曹洞宗不動産（建物）償却引当積立金及び不動産取得運用基金特別会計歳入歳出補正予算（第１回）・令和２年度曹洞宗図書印刷物等刊行特別会計歳出補正予算（第１回）・曹洞宗規程制定案（新型コロナウイルス感染症の影響による福祉資金貸付規程）・曹洞宗宗制様式新設（新型コロナウイルス感染症の影響による福祉資金貸付申請書）・曹洞宗規程中一部変更（選挙規程・宗議会規程・護持会規程・儀礼規程・審事院規程）

●承認を求める件／令和元年度曹洞宗一般会計歳入歳出決算他16件

鶴一聲

アルフォンス・デーケン氏が今年九月に亡くなった。彼が長年上智大学で行った「死への準備教育」の講義は、人間らしい死を迎えるにはどうすべきか、必ず訪れる死を見つめることによって限りある生を充実させることが目的とされた。日本に死生学を広めた第一人者である。

この分野では精神科医のキューブラー・ロス博士の『死ぬ瞬間』がよく知られている。多くの末期患者に共通する死までの心理状態の変化を調査し、①否認②怒り③取引き④抑うつ⑤受容の五段階にまとめた古典的研究書。

デーケン氏はこれに第六段階として⑥期待と希望を加えた。天国で愛する人と再会することへの期待、永遠の未来に対する明るい希望である。これはクリスチャンに多く見られる態度と説明するが、死に対する恐怖や不安を和らげる効果があると言える。デーケン氏自身も、幼くして死別した妹の最後の言葉「天国で会いましょう」が死生学を志した動機だと語っていた。

日本では「お迎え現象」というものが報告されている。人が死の直前に他人には見えない人や存在を見たり聞いたりする現象のことで、既に亡くなった家族や友人を見る場合が多い。ここにも今は亡き愛する人たちとの再会を願うという共通点がある。

一方看取る側としては、死にゆく人を安心させ、その人生を振り返り肯定できるように手助けするべきであろう。宗教者としてそういう場面にそっと寄り添いたいと思う。

大本山總持寺前貫首板橋興宗禪師ご遷化

遺偈

即如眞實
九十四年
閑月一路
遊化無邊

世壽94歳、令和2年7月5日御誕生寺にてご遷化されました。ここに長年のご教導に対し深謝申し上げますと共に、品位の増崇ならんことを祈念申し上げます。

なお、茶毘式は去る11月10日大本山總持寺において法定聚会にて挙行されました。

第135回通常宗議会
総 長 演 説（要旨）

宗務総長　鬼生田 俊英

新型コロナウィルスの感染が世界を席巻し、未だ終息の兆しが見えない状況の中、世界経済に甚大な影響を与え、日本も国難と言うべき、戦後最大の危機に直面しているように思えます。このような感染状況に鑑み、宗費の納入期限につきましては、本年４月１日に宗令を公布し同年12月30日まで延長する措置を講じました。尚、本宗令を含め、それぞれ発した宗令につきましては、今次通常宗議会において承認を求めることになりますので、よろしくお願いします。

毎年６月に開催しておりました通常宗議会は、防疫の観点から招集を見送りましたが、６月２日に参事会を開催し、同感染症に関連する緊急対応に資するための補正予算を審議しましたことをご報告申し上げます。

総務部において実施いたしました「新型コロナウィルス感染症による寺院への影響に関するアンケート」の回答結果を受け、「新型コロナウィルス感染症の影響による福祉資金貸付規程案」を上程いたしました。これは、新型コロウィルス感染症の影響を受け、一時的な資金難に直面した寺院に対し、無金利での貸付を行うことにより返済の負担を最小限に抑えつつ、運営資金面をサポートすることが趣旨でございます。加えて、「新型コロナウィル感染症対策積立金」として、令和２年度曹洞宗一般会計歳出臨時部に新設する補正予算案を上程いたしました。この新設案は、新型コロナウィルス感染症の影響により、実施することができなかった今年度の未執行分の予算を積立て、次年度の一般会計に繰り入れることで、令和３年度の宗費の負担を軽減することを目的といたします。

次に、宗務庁の業務につきまして、申し上げます。４月の緊急事態宣言により、宗務庁は可能な限り感染者の増加を抑制、また、職員その家族の生命の安全確保・健康維持を優先し、業務全体を停止する判断をいたしました。

この対応を執ったことで、文書受付自体を停止することになり、宗門関係者を初め各方面の方々に対し、ご不便をおかけしましたこと、心よりお詫び申し上げます。解除後の宗務庁勤務形態はあらゆる対応に注視し、幾度となる変更を行いました。現在も通常勤務を執らず、出勤者数を調整する体制を継続しております。業務再開後は、予防と感染リスクの軽減の観点から、職員には基本的な予防策を励行させております。加えて、感染した場合の対応を事前に通知するなど、勤務上での不安を少しでも除くように努めております。今日時点において、職員には感染症の発症者はおりませんが、一人一人が感染しないよう注意喚起していく所存でございます。

曹洞宗檀信徒会館の運営につきまして、申し上げます。感染症の世界的な流行の影響を受け、今年度初めより非常に厳しい経営状況を強いられております。ホテル・観光業界全体に当てはまることであり、その為、政府は緊急事態宣言後、低迷した観光事業支援を目的とする「GoToトラベルキャンペーン」の実施を決定し、当初は除外されていた東京都からの発着の旅行、在住する方々の旅行に対しても、10月１日より支援の対象となりました。このことにより旅行の需要の喚起、開催が延期された東京オリンピック・パラリンピックの経済的波及効果も、ホテル経営に直面するため、景気回復に期待を寄せております。何れにしても従業員一同、一味同心し苦境を乗

り越え終息後をも見据えた、会館全体の体制作りに精励していく覚悟でございます。引き続き宗門関係者に檀家信徒会館の利用を促していただくようご協力をお願いいたします。

この度の感染症は例外なく、世界の情勢を突如として転変させる力をもっております。宗門関係者にとりましては、未曾有の事態に遭遇しても決して臆することなく、檀信徒の安寧や寄る辺となるべき寺院の在り方を再考する好機とし、この新型コロナウィルスと向き合っていただきたいと存念しております。あらためて、一仏両祖の御教えに寄り添い、この感染症に対する正しい知識を持ち、正しく理解し、冷静で理知的な行動をとることが第一歩だと存じております。世界中の人々を震撼させている新型コロナウィルスの感染症が一日でも早く終息し、平穏な日々が再び戻ってくることを希求してやみません。

次に豪雨災害につきまして、ご報告いたします。
毎年のごとく大規模な自然災害が発生し本年７月に発生した豪雨により、全国各地に甚大な被害が生じております。７月４日には集中豪雨により熊本県の球磨川が広範囲で氾濫により、土砂崩れ浸水被害、また、６日から７日にかけては記録的な大雨により、福岡県・大分県など九州全域に被害が拡大しました。さらには、28日東北地方を中心に大雨が発生し、最上川の氾濫により山形県・秋田県を中心に浸水等の被害をもたらしました。

犠牲になられました方々のご冥福をお祈りいたしますとともに、被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。また、被災されましたご寺院におかれましては、一日でも早い復興をお祈り申し上げます。この豪雨災害に対する活動支援金として、熊本県第一宗務所・山形県第一宗務所へ各30万円、シャンティ国際ボランティア会と全国曹洞宗青年会へ各10万円を支出いたしました。

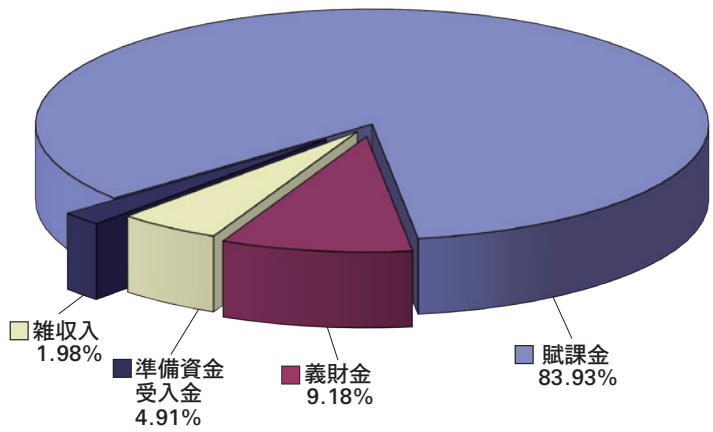
さらには、曹洞宗義援金より、特に寺院被害が大きかった熊本県第一宗務所へ100万円を寄託いたしましたことを、ご報告申し上げます。関係各位には、コロナウィルス感染症の感染拡大が収まらない大変厳しい状況の最中、現在まで継続してボランティア活動、復興支援活動にご尽力いただいておりますこと、深く敬意を表する次第であります。

次に、副貫首選挙につきまして、ご報告いたします。今般の大本山永平寺貫首ご交代に伴い、副貫首選挙が行われることとなりました。そのため、選挙長として、速やかにその準備を進めておりますが、この度の執行にあたり、供託金の取り扱いについて、規程を変更する必要が生じたため、今次通常宗議会に変更案を上程いたしました。

さて、第１期鬼生田内局は平成30年10月に発足しましたが、爾来、宗議会をはじめ、全国宗務所、寺院、檀信徒の各位により、格段のご理解とご鞭撻をいただき、２年間の任期を迎えることとなりました。ここに衷心より感謝申し上げます。10月21日より、第２期が始まることとなりますが、第１期と同様に「竿頭の先に未来をひらく」を標榜し、勇往邁進していく所存ですので、引き続き宗務運営に対するご協力、ご支援を願うところでございます。

令和元年度曹洞宗一般会計歳入・歳出決算

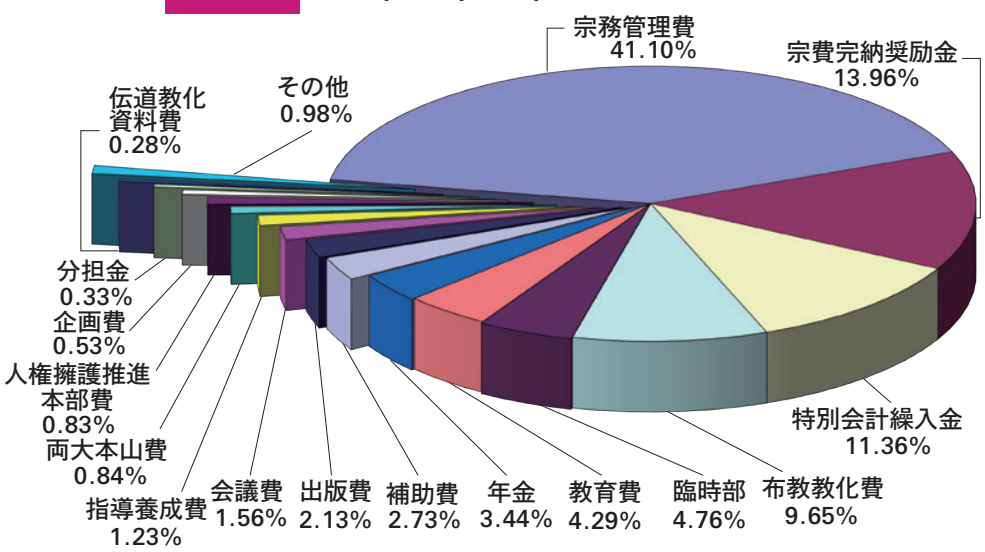
歳　入　5,002,695,651 円



内訳

歳　入	歳 入 額
賦課金	4,174,896,840
義財金	456,409,510
準備資金受入金	244,403,000
雑収入	98,418,681
手数料	28,567,620

歳　出　4,445,550,237 円



内訳

歳　出	歳 出 額
宗務管理費	1,827,048,571
宗費完納奨励金	620,771,905
特別会計繰入金	505,000,000
布教教化費	429,214,080
臨時部	211,470,456
教育費	190,539,343
年金	152,905,903
補助費	121,480,089
出版費	94,804,409
会議費	69,294,477
指導養成費	54,516,250
両大本山費	37,200,000
人権擁護推進本部費	37,119,939
企画費	23,596,552
分担費	14,596,040
伝道教化資料費	12,384,531
その他	43,607,692

総　括　質　問(要旨)

總和会代表　岩 井 秀 弘

級階査定について

①全ての寺院が全檀信徒数を申告して頂けますれば、点数は増加し、更に細分化され逆に点数格差も縮まり、より公平な査定になるかと思われるがいかがでしょうか。
②収支計算書の提出を求める事を検討するとともに、護持会決算書等各寺院の檀信徒数が確認できる書類提出も要請はするべきかと思う。

答弁　今後も、少子高齢化や過疎化が寺院に及ぼす影響を注視しながら、先の級階査定を検証するとともに、提言を踏まえ、より公正で公平な査定の方途を模索して参ります。

寺院過疎化問題･過疎地寺院復興対策室について

①宗務庁直接の申告方法を取り、級階査定調査による、申告された檀信徒数と切り離した形での、総務部または伝道部所管により、現在の曹洞宗の檀信徒数を可能な限り正確に把握できる調査の実施検討をして頂きたい。
②可能であれば、宗門独自のクラウドファンディングのような支援システムの検討も考えて頂けたらと存じます。

答弁①　過疎地寺院振興対策を検討する上で、檀信徒総数を正確に把握することは重要な課題であり、各地における人口減少率などと重ねあわせた分析が必要になると考えております。

答弁②　クラウドファンディングは寺院が寺院を支援するシステムとして、より開かれたものである必要があるので、宗門独自で運営するには寺院の各状況を踏まえた上で、慎重な検討が必要と思う。

宗制調査室について

①宗制の第39条の第１項と第３項については、理事、監事に関する条文等の追加も含め、宗門関係関連学校と恒久的且つ、円滑な関係を継続できるような条文改正の早期検討を望みます。
②選挙規程第28条、（欠員補充の特例）について、次点者繰上げ権利が２年間という期間は長すぎるかと思う。次期の選挙までには改正の検討をしてはいかがか。

答弁①　曹洞宗宗制とは、教団の理念、守るべき伝統、公益法人としての資格要件などをまとめた大切な規範であり、その時代の社会規範に合致してこそ活かされる。今後担当部内において、情報収集と検討を鋭意重ねる。

答弁②　宗門の宗議会議員選挙は、世俗一般の選挙と異なり、会派間によって政局を争うものではなく、等しく宗門の興隆を願うために比例代表選出のような考え方も必要と思われるが、十分な時間をかけ検討する。

教師資格・人材の育成について

高齢者等年齢別安居期間短縮と仮称特別教師等の検討について、人生経験を修行期間として考慮し、検定後の安居期間を短期に設定し年齢に応じた仮称「特別教師」等新たな名称の住職資格を与えることの検討はできないか。

答弁　叢林の門をくぐることを前提としたご提言であるので、誓約に頼る教師補付与よりは、安居が確実なものになる。但し、受け入れる僧堂としては、短期間の安居となるため、どこまで指導が行き届くか、他の修行僧との関係性など、検討すべき課題は多くあろうと思うが年齢にかかわらず、多くの宗侶が僧堂の門を叩くハードルを下げられるような施策の検討が必要と思われる故に宗門の人材育成住職後継者として貴重なご提案と受け止め検討をさせていただく。

危機管理について

①総長、内局の直属の危機管理・法令順守に関する諮問機関(仮称危機管理委員会危機管理室)の早期設置と、各種危機管理に関する研修会等の開催検討を望みたい。
②コロナ禍のなかで宗門行事、研修会は延期、中止が続いているが、暫定的に研修会を地方に委託する検討は出来ないか。

答弁①　総長直轄機関として、危機管理や法令順守に関する、様ざまな重要案件を諮問する機関の設置を望むために、関係各位の知見を集約し、理想とする組織が構築できるよう、検討を重ねてゆく。

答弁②　感染リスクを伴う開催にあたっては、より慎重な検討と準備期間が必要となる。

檀信徒会館について

宗務庁と檀信徒会館が協力し、菩提寺の包括法人である曹洞宗の統括本部である宗務庁の見学と研修をして、菩提寺の檀信徒・寺院役員としての責任意識を強く持って頂き、全国の宗務所・教区に対して檀信徒会館を利用しての宗務庁研修会を誘致してはいかがか。

答弁　管区、宗務所、教区に対して、檀信徒会館を利用した宿泊を伴う研修等の企画並びに宗門出版書籍類の展示スペースの設置については、宗務庁の関係各部署と協働してゆく。

通　告　質　問（登壇順）要　旨

第1区 中根　正賢

新型コロナウイルス感染症の影響により寺院収入が減少、対応として来年度宗費を減額できないか

答弁　来年度宗費負担軽減を目的に、今年度新型コロナの影響で実施することができなかった事業の未執行分予算を財源とした「新型コロナウイルス感染症対策積立金」を新設した。

東京グランドホテルについては、宗務庁舎との関連も考慮した委員会等を立ち上げ、広く意見を募って将来図を作っていかなければならないのでは

答弁　ソート―ビル運営委員会規程により同委員会内に専門部会を立ち上げ、本件に関わる調査研究の為、有識者を交え将来の指針を検討する。

第31区 佐藤　清廉

過疎対策の一環として行われた昨年度の現地視察を踏まえ、今後の過疎地寺院振興対策室の方針について

答弁　故郷を離れている遠方檀信徒の課題について着手。今後は過疎問題に関する情報を積極的に公開、調査によって集約した意見を参考に施策を講ずる。

感染症のアンケート調査を鑑み、今後の施策にどう反映させるのか

答弁　新型コロナウイルス感染症の影響を受けた寺院に対する施策として、一時的な資金難に直面した寺院に無利息にて貸付けを行う「新型コロナウイルス感染症の影響による福祉資金貸付規程」を新設する。

第2区 服部　直哉

東京グランドホテルの、来年度東京オリンピック・パラリンピックに関わる稼働率及び今年度上半期損益予想を踏まえ、将来に向けての方策は

答弁　来年度東京オリンピック・パラリンピックに関わる予約は、今年度同様最大80室、今年度上半期損益は２億円余りを見込んでいる。将来に向けての方策等については、ソート―ビル運営委員会内の専門部会にて検討を重ねていく。

コロナ禍における宗務庁役職員の勤務形態等。特に、テレワークが適した業務・リモートワークが導入された部署・オンライン会議が実施された会議内容とそれによるコストの削減について

答弁　テレワーク等が適する業務及びリモートワークが導入された部署の勤怠管理や業務成果の評価については現時点で述べることはできない。また、オンライン会議については総合研究センターオンライン会議等を実施、明確なコスト削減とはなっていないが、効率化を図り適切に運用できるよう検討する。

東京グランドホテルのホテル経営は今後も続けられるのか

答弁　現段階では、ホテルとして経営を続けていくか否かは決定していない。今後は、ソート―ビル運営委員会内の専門部会にて、有識者の方々を含め、関係各位からの意見を基に検討し決定する。

文　書　質　問

第15区 平岩　浩文

現在、梅花流特派師範49名・特派布教師38名であるが、特派布教師を増やすことはできないのか。また、巡回終了時には各宗務所・教区又は教場主より報告書が提出されるが、講員・受講者・聞法者からの報告書（感想等）もあっていいのでは

答弁　布教教化規程第18条「特派布教師は、本宗の他の宗務機関の役員又は職員を兼ねることができない。」とあり、更に、梅花流特派師範と特派布教師は、巡回の内容や性質が異なることにより、人数を同数にすることは難しい。特派巡回時の報告書については、聞法者や教範の方々の厳しくも励みとなる報告や感想等を、担当部署において検討する。

コロナ禍において、リモート特派梅花・リモート特派布教を検討してはどうか

答弁　過疎地域や遠方檀信徒に対し、梅花講員の減少や檀信徒の寺離れを押しとどめる重要な施策に結び付くものであり、これからの時代に即した方法として検討する。

三吉由之新議長あいさつ。右は村松副議長

密を避けるため議場は人数制限

正副議長選挙

採　決

第135回 通常宗議会 常任・特別委員

宗議会議長 須 田 孝 英

○運営委員会
長 山本健善　主 片山昌佳
大坂恵司　奥村孝善

○予算委員会
長 五十嵐靖雄　主 嶽盛和三
主 中根正賢　福田光昭
乙川良介　清泉文英
平岩浩文　荒井裕明

○第１決算委員会
長 龍谷顯孝　伊藤弘隆
主 森元亨　岩井秀弘
主 田中清元　甘蔗英司

長…委員長　主…主査

○第２決算委員会
三吉由之　主 深川典雄
主 名村直高　佐藤清廉
髙橋英悟

○第１特別委員会
長 倉内泰雄　主 坂本泰俊
石附正賢

○第２特別委員会
主 岡芳雄　藏山大顕

○請願委員会
倉内泰雄　主 藏山大顕

○懲罰委員会
主 山路純三　長 近藤龍法
服部直哉

總和会役員構成

最高顧問 石附周行
常任顧問 乙川暎元
顧　問 藏山光堂

会　長 鬼生田俊英
副会長 岡芳雄
幹事長 森元亨
副幹事長 嶽盛和三
副幹事長 田中清元
副幹事長 清泉文英
副幹事長 石附正賢

常任顧問 石橋晋哉
顧　問 須田孝英

副会長 倉内泰雄

副幹事長 片山昌佳
副幹事長 坂本泰俊
副幹事長 荒井裕明

東北髙橋英悟　北海道奥村孝善

会長指名 森元亨　会長指名 嶽盛和三
会長指名 片山昌佳　会長指名 田中清元
会長指名 坂本泰俊　会長指名 清泉文英
会長指名 荒井裕明　会長指名 石附正賢

監　事 奥村孝善　監　事 甘蔗英司

宗議会議長 三吉由之

常任幹事
関東 中根正賢　東海 名村直高
近畿 平岩浩文　中四国 大坂恵司
九州 藏山大顕　北信越 乙川良介

總和会内局員
宗務総長 鬼生田俊英　総務部長 橋本壽幸
人事部長 成田隆真　伝道部長 岩井秀弘

四部会構成

	政調部	組織部	社会部	広報部
会　長	鬼生田　俊英			
顧　問	須田　孝英			
議　長	三吉　由之			
副会長	岡　芳雄　倉内　泰雄			
幹事長	森　元亨			
副幹事長	嶽盛　和三	片山　昌佳	田中　清元	
副幹事長	坂本　泰俊	清泉　文英	荒井　裕明	石附　正賢
内　局	橋本　壽幸　成田　隆真　岩井　秀弘			
部会員	中村　見自 近藤　龍法 奥村　孝善 福田　光昭 乙川　良介 藤木　道明 加藤　賢一 松田　宏道 荒瀬　弘豊	深川　典雄 龍谷　顯孝 藏山　大顕 山本　健善 中根　正賢 甲斐　史郎 中川　豊昭 國生　泰俊 岩吉　泰彦	山路　純正 五十嵐靖雄 名村　直高 伊藤　弘隆 服部　直哉 酒井　秀瑞 大庭　諦道 西川　光典 梅本　実道	大坂　恵司 佐藤　清簾 甘蔗　英司 平岩　浩文 髙橋　英悟

＊会長、顧問、議長、副会長、幹事長及び内局は随時各部会へ出席

總和会会務報告

期日	会務内容
１月９日	執行部会
１月10日	執行部大本山總持寺拝登
２月６日	執行部会
２月７～８日	静岡西部支部総会
２月23日	顧問・執行部会
２月23日	議員総会
４月１日	執行部会
７月８日	執行部会
９月10日	執行部会
10月11日	執行部会・議員総会

※上記期間中に予定されたブロック大会並びに支部総会は、新型コロナウィルス流行のため、中止または延期となっております。

總和会ホームページ　http://souwakai.info

編集・奥村孝善　大坂恵司　荒井裕明　石附正賢　平岩浩文　甘蔗英司　佐藤清廉